

佐久病院における地域ケア活動の実践

(平成22年度版)

1. 佐久総合病院の概況

長野県佐久地方は千曲川に沿った形で、上流から南佐久郡・佐久市・北佐久郡・小諸市と分布し、水田・果樹・花卉・高原野菜などの農業が盛んな準農業地帯です。

近年、長野新幹線や高速自動車道の開通により、佐久市は都心からのアクセスが飛躍的に改善され人口も増加していますが、そこから数キロ南に入った当院の立地する佐久市臼田地区を過ぎた南佐久郡下は、過疎化が進み高齢化率 30%を超える超高齢地域です。またこの佐久地域も市町村合併の大きな渦の中にあり、当院の立地する旧臼田町は旧望月町・旧浅科村とともに平成17年4月に佐久市に合併し、保健予防活動で有名な旧八千穂村も平成17年3月に旧佐久町と合併して佐久穂町となり、長年培われた保健・福祉の枠組みが大きく変わっています。

当院は1944年(昭和19年)にベッド数20床の小さな診療所として創立されました。現在は821床(美里分院120床・小海分院99床を合わせると1,040床、他に佐久老健94床、老健こうみ59床)、職員数は本年4月1日現在1,922名の地域の基幹病院です。

2. 地域ケア活動の基本理念

～障害をもっても住み慣れた地域で安心して暮らせるために～

(1) モットー

「いつでも、どこでも、だれでも、必要な医療サービスが受けられる」

(2) 対象者

「介護を必要とする人とその介護者」

(3) 地域ケア科の活動の柱

- ・「生命(いのち)を守る援助」=在宅医療
- ・「生活(くらし)を守る援助」=在宅福祉

【地域ケア科訪問看護理念】—平成22年4月制定—

- (1) 自律(立)した訪問看護を目指します
- (2) 患者さん・ご家族に寄り添える訪問看護を目指します
- (3) 地域に根差した訪問看護を目指します

3. 地域ケア活動の経緯

1988年(昭和63年)10月に在宅ケア実行委員会が組織され、24時間体制の在宅ケア活動が開始されました(利用者に対する月1回の訪問診療、また緊急時には24時間体制での電話相談、往診、入院受け入れなど。対象地区:佐久市、佐久穂町)。

この委員会の活動をはじめとして、87年「老人保健施設」モデル事業設置、山間へき地の「南部4ヵ村在宅ケア合同事業」などが取り組まれ、在宅福祉の先駆的な活動として全国から評価されました。また、1990年4月には小海診療所で、92年には本院において組織的な訪問看護活動が開始されました。

94年(平成6年)10月、地域医療部の一部門として「地域ケア科」が設立され、それまでのボランティアな活動が病院の重要な部門として位置づけられました。

現在地域ケア科は医師17名(兼務)による在宅訪問診療(4月1日現在で291人の地域ケア科登録)、5ヵ所の訪問看護ステーションと1出張所、2ヵ所の地域包括支援センター(町への職員出向を含む)、5居宅介護支援事業所、1宅老所の運営及び訪問リハビリテーションを行っています。

4. 活動スタイル

(1) 訪問診療、緊急往診、専門科往診、専門科訪問診療

- ・ 17人の医師（内科、総合診療科、精神科、リハビリテーション科、後期研修医など）がチームを組み、地域ケア科看護師のマネジメントで訪問診療（医師と看護師のチーム）を実施しています。（これとは別に小海診療所では4月1日現在 200人の登録があり、在宅訪問診療を行っています。）
- ・ 時間外は医師1名と看護師1名が拘束体制を取り、急変時の往診などに備えています（24時間 365日体制）。また総合診療科や病棟との連携をとり、緊急時の外来受診や入院の受け入れにも対応しています。
- ・ 訪問診療・訪問看護時の状態で専門科治療が必要と判断された場合に、6名の専門科医師（形成外科、眼科、皮膚科、歯科口腔外科）による往診日に専門科往診を実施しています。
- ・ 地域ケア科登録患者以外の神経内科疾患患者に対しては、別に専門科訪問診療（神経内科医師2名）も実施しています。
- ・ 在宅療養支援診療所の創設に伴い、近隣医療機関との連携強化を進めています。

(2) 訪問看護サービス

- ・ 5カ所の訪問看護ステーション（うすだ、のざわ、やちほ、こうみ、あさしな）と1出張所を地域のサテライトとして、地域に密着した訪問看護の提供を行っています。
- ・ 佐久病院との連携はもとより、地域の医療機関との連携を密にした活動を行っています。
- ・ いずれも24時間対応体制（拘束制）をとって活動しており、佐久地域の在宅医療・在宅ケアを支える大きな柱となっています。
- ・ 訪問看護ステーションに理学療法士（PT）、作業療法士（OT）を配置し、高まる地域のリハビリテーションの要望に応え、特徴ある訪問看護を展開しています。

(3) 居宅介護支援事業

- ・ 現在6カ所の居宅介護支援事業所（内地域ケア科所属5カ所）で、22人（同19人）の介護支援専門員が居宅介護支援事業を行っています。
- ・ 佐久総合病院内の介護支援室・ケアプランセンターでは、介護保険に関する相談窓口としての機能を併せ持っています。

(4) 地域包括支援センターの運営事業

- ・ 地元佐久市からは事業委託を受け、臼田地域包括支援センターの運営を行っています。佐久穂町地域包括支援センターへは2名の職員（保健師・社会福祉士）が出向しています。

(5) 宅老所の運営事業

- ・ 平成16年12月に旧八千穂村（現佐久穂町）の要請を受け、宅老所「やちほの家（うち）」を立ち上げ、独自の取り組みを実施しています。

(6) 訪問リハビリテーション

- ・ 平成19年1月より、本院からの訪問リハビリテーションを開始しました。

(7) 多職種の参画

- ・ 薬剤師、管理栄養士、理学療法士、放射線技師、鍼灸師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職も参画し、年に1度の定期的な在宅での胸部X線撮影の他に、緊急時訪問によるX線撮影の実施や、投薬・注射等による治療効果が薄い腰痛・膝痛等症状のある患者に対して鍼灸治療等を行うなど、より専門性の高い援助を在宅のチームとして行っています。

5. 行政との連携

浅科望月地域ケース検討会、佐久市臼田地区地域ケア連絡会、佐久市居宅介護支援事業所連絡会、佐久穂町ケース検討会議、佐久穂町居宅介護支援事業所連絡会、佐久穂町高齢者在宅福祉推進委員会、佐久穂町地域包括支援センター運営協議会、佐久穂町健康管理合同会議、小海町地域包括支援センター連絡会、小海町高齢者在宅ケア会議、南相木村在宅患者連絡会、北相木村在宅患者連絡会、北相木村みどり在宅カンファレンス、南牧村在宅患者連絡会等々に参加し、各市町村との連携強化を図っています。

6. JA福祉事業との連携

平成12年3月に大型合併により2市2郡をカバーするJA佐久浅間が発足しました。4地区に生活福祉相談センターが配置され、JAの生活福祉事業が展開されています。

地元の「さく生活福祉相談センター」、「みなみ生活福祉相談センター」でも、居宅介護支援事業、訪問介護事業、訪問入浴事業、通所介護事業、福祉用具貸与事業等介護サービス事業を行うとともに、配食サービス・まごころ食材配達・介護タクシー・有償ボランティア「すけっと」・健康福祉相談など高齢者福祉事業と保健事業を展開しています。平成18年度には各旧JA単位で行っていた、いこい会・ささえ会・ゆうあいの会・ハートケアしらかば等の助け合い活動を、JA佐久浅間助け合い組織協議会として組織化し、平成20年度よりJA佐久浅間助け合いの会として、ミニデイサービス活動（お茶会）・JA福祉施設ボランティア活動等に取り組んでいます。

平成16年度には佐久市桜井にさく生活福祉相談センターも含めた総合福祉施設「ひだまり」がオープンし、平成20年4月にみなみ地区JA福祉施設「星の里」が、当院美里分院・農村保健研修センターの一角に移転オープンして、医療・福祉事業を支援すると共に、JAとの連携に努めています。

また、JA野沢原出張所に訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所、岸野支所内に訪問看護ステーション出張所を設置し、佐久市のキーステーションとしての重要な機能を果たしています。きしの出張所では平成19年4月より、ミニデイサービスのお茶会に合わせて健康福祉相談を始めています。

平成21年10月1日 現在人口			
市町村名	総人口(人)	65才以上(人)	高齢化率(%)
佐久市	99,913	25,875	25.9
佐久穂町	12,306	3,887	31.6
小海町	5,293	1,863	35.2
川上村	4,498	1,151	25.6
南牧村	3,388	939	27.7
南相木村	1,097	430	39.2
北相木村	837	346	41.3
小諸市	44,827	11,254	25.1
軽井沢町	18,079	4,452	24.6
御代田町	14,271	3,169	22.2
立科町	7,866	2,287	29.1
佐久地域全体	212,375	55,653	26.2
長野県計	2,160,873	564,802	26.1

圏域市町村	: 2市5町4村
圏域人口	: 211,957人
圏域世帯	: 78,290世帯
圏域面積	: 1,571.62k m ²
(平成22年3月1日現在)	

佐久地域の人口

平成22年度版
長野県統計資料による

